



横浜市立子安小学校
新校舎落成記念



光と風と緑の学校

横浜市立子安小学校 新校舎落成を祝して

新たな文化の風を 子安の「まち」とともに



子安小学校
校長 宮生 和郎

今年8月末にすべての工事が完了し落成を迎えた新校舎は、横浜市教育委員会をはじめ学校関係者の英知と建築家の方々の未来を見据えた斬新な発想、最新の建築技術が集結し、子どもたちにとって最高の教育環境となりました。子安小学校の重厚な歴史の1ページとなる新校舎落成を子どもたち・保護者・地域「まち」の皆様とともに迎えることができたいへん光栄に思います。

移転新築にあたっては、交通安全上の問題等今までに経験していなかった問題が多くありましたが、保護者、地域の皆様が一丸となって子どもたちの安全を確保してくださるなど、子どもを中心にしてさまざまな問題を解決に導いてくださいました。まさに「子安」の名の由来「子どもら安かれ」の精神が脈々と受け継がれていると感じました。移転整備事業実行委員会の皆様をはじめ保護者・地域・関係者の皆様に改めて感謝いたします。

時代の変化の波がどんな形で押し寄せようとも、子安の「まち」とともに子どもたちが安心して豊かに、そして新しいことにチャレンジできる学校を創っていきたくと思います。これからも温かいご支援をよろしくお願いいたします。

子安小学校新校舎落成を祝して



子安小学校
校舎移転事業実行委員会
委員長 伊東 英紀

横浜市立子安小学校新校舎落成おめでとうございます。

子安の里から打越の丘に移転し、今までの学校の1.5倍の広さ、小学校としては全国でも1位か2位となる1500名を収容できる大きさの校舎です。また、明るく斬新な、最新の設備をそなえた学校になりました。

移転に当たり、宮生校長先生をはじめ教職員及びPTA関係の皆様の多大なご尽力により、スムーズに、児童の学習に支障をきたすことなく進められ、移転が終了したことに深く敬意を表します。

創立146年のスタートをこの新校舎で迎え、145年間育んできた「伝統あるバトンをみんなで未来につなげよう」のもと、子安の魂を吹き込んで、新子安地域に住む皆様の中心的場所として子どもたちの心の故郷となるよう願っています。

今回の校舎移転事業にご尽力いただいた多くの方々、PTAをはじめ実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

新校舎に期待すること



子安小学校 PTA
会長 木村 健

横浜市立子安小学校の新校舎が落成されたこと心よりお祝い申し上げます。この光と風と緑があふれる素晴らしい学校で、子どもたちを学ばせることができることを保護者として誇りに感じます。

子安小学校の歴史は、今から145年前、子安学舎が創立されたのが始まりでした。子安では古くから漁業が盛んで、漁師たちが海に出ている間は、町ぐるみで子どもたちを育てるという文化が根付いていたそうです。長い年月が経ちましたが、家庭と地域が一体となって子どもたちを見守っていくという考えは、今も、よき伝統として受け継がれています。

新校舎の特徴として、開放感のあるテラスやガラスで仕切られた教室など、開かれた学校であるということが挙げられます。子ども同士はもちろん、保護者や地域住民にとっても「つながり」を感じられる場所となり、古くから受け継がれてきた伝統を、より素晴らしいものとして未来へつなげていけるのではないかと思います。

新校舎落成を祝して



横浜市長
林 文子

このたび、横浜市立子安小学校の新校舎が完成し、落成式を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴校は、明治六年に子安学舎として創立以来、地域との結びつきを大切にしながら、「まち」とともに歩む学校づくりを進めてこられました。子どもたちの安全を第一に考え、学校・家庭・地域が一体となって移転を進めてこられましたことに、心より敬意を表します。

横浜市は、時代の変化の中にあつて、横浜の子どもたちが自分の可能性を発揮し、よりよい社会や新たな価値を創っていきけるよう、主体的に考え学び続け、多様な人々と社会と関わり合える環境づくりを大切にしています。個性や能力を活かしながら、夢や目標に向かってチャレンジできる人を育むために、今後も取り組んでいきます。

貴校が新校舎においても百四十五年間の歴史と伝統を継承しつつ、学校・家庭・地域が一体となり、次世代を担う「横浜の子ども」を育んでいかれることを、心から願っております。

結びに、関係の皆様のご健勝を祈念申し上げます。お祝いの言葉とさせていただきます。

お祝いのことば



神奈川区長
高田 靖

横浜市立子安小学校 新校舎の落成を心よりお祝い申し上げます。

子安小学校は、明治六年の開校以来、今日まで、歴代校長先生を始め教職員、PTA関係者並びに地域の皆様方の多大なるご尽力により、子どもたちの豊かな成長に向けた教育活動を展開し、輝かしい伝統と校風を築いてこられました。

貴校では、子どもたちが生活する地域「まち」との繋がりを大切にし、地域と連携した様々な取り組みを進めています。区役所でも、区政運営方針において『「つながり」「安心」「温かさ」を実感できるまち「神奈川区」』を掲げており、貴校が大事にされている「地域や人とのつながり」の実現に向けた、学校、家庭、地域が一体となった取組が大切であると考えています。

これからも、清潔で明るく温かみのある新校舎で、これまで築いてこられた伝統と校風を引き継ぎ、子どもたちが健やかに育つ学校として、ますます発展されますことを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

新校舎落成を祝して



横浜市教育委員会
教育長 鯉淵 信也

このたび、横浜市立子安小学校の新校舎が完成し、新たな場所でも希望に満ちた船出を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴校は、明治六年に子安学舎として創立以来、激動の時代を乗り越え、「子安」という名のとおり子どもを第一に考えた学校づくりを地域と共に進めてこられました。また、明治八年に新築移転して以来、大正十五年、昭和五十七年に新築移転を経験してこられました。そして今年度、設備の充実した新校舎が完成しました。

横浜市教育委員会としては、今年三月に「横浜教育ビジョン二〇三〇」を策定しました。「横浜の教育が目指す人づくり」を「自ら学び社会とつながりともに未来を創る人」とし、複雑で変化の激しい時代、解が一つではない課題にも柔軟に向き合い、持続可能な社会の実現に向けて、自分たちができることを考え、他者と協働し、解決していくことの重要性を示しております。

貴校はこれまでも国語教育、外国語教育の研究を始め、次期学習指導要領を見据えた「プログラミング教育」の導入など教育の充実・発展を図ってこられました。また、学校教育目標に「自分が好き友だちが好きな学校が好きまちが好き」を掲げられ、地域とのつながりを大切にした教育活動に取り組んでこられました。これからも「まち」の人たちと豊かなネットワークを築く中で先進的な取組を推進されますことを期待しております。

結びになりますが、百四十五年の重厚な伝統と「まち」との深い絆のもと、貴校がますます発展されることを祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

2018年4月 横浜市立子安小学校 待望の新校舎完成

KEY 1
WORD

国内最大級のマンモス校

KEY 2
WORD

プレキャスト工法

KEY 3
WORD

近隣環境との調和



設計者
の
ご紹介

建築家
山本理顕さん

Riken Yamamoto

株式会社 山本理顕設計工場

撮影：森日出夫

何度でも行きたくなる 近くの山本理顕建築

横須賀美術館



海を見渡せる丘に建ち、シーグラスを思わせるエメラルドグリーンガラスが印象的な美術館。

併設されている図書室には、子ども向け美術関連図書が多く揃っていて、落ち着いた空間でゆっくりできます。

また、解放感あふれる屋上からは絶景を楽しめます。

いつかは行ってみたい 世界の山本理顕建築

スイス チューリッヒ国際空港「ザ・サークル」(2020年春頃完成予定)



チューリッヒ空港に隣接する複合施設建設のための国際実施コンペが行われ、世界12カ国から90チームが集まる中、約1年に渡る審査を経て、最優秀賞を受賞しました。

「私の学校は山本理顕さんの設計だよ！」と自慢したくなる本

長年に渡る、国内外数々の建築実績がまとめられた本が出版されました。

子どもの頃にあこがれた「未来の建物」が実在するんだなと感じさせられます。

図書室で、みんなに読んで欲しいです。



平成27年3月に設計者が決定

プロポーザル方式による設計者選定

10者の設計者に企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った設計者を選定し、二次評価検討会を経て「山本理顕設計工場」に決定しました。

平成27年4月から平成28年2月まで約10ヶ月

基本設計

建物に対する考え方、敷地、立地条件などを調査し、建築基準法等の関係法令に照らし合わせ、平面、立面などの基本設計図を作成します。『希望』が具体化される重要な課程です。「プロジェクト会議」4回、「技術審査委員会」3回、通常よりも長い時間をかけて、じっくりと計画が練られました。

平成28年2月から9月

実施設計

基本設計に基づいて仕上げの材料や、使用する部材の詳細、構造や設備の詳細を決め、実際に建物を建てられる図面を作成し、工事金額を確定する重要な作業です。その後、さらに重要な現場監理の仕事があります。

立案から2年の準備期間を経て、着工となりました。

プレキャスト工法で工期が短く、強度・耐震性に優れた校舎

プレキャスト工法とは

事前(=プレ)に成形された(=キャスト)コンクリート部材を工場生産しておき、その部材を建設現場に運び込んでつなぎ合わせる工法です。

一番の利点は、季節や天候・職人の技などの外的要因によって左右されることなく、工場の理想的な環境で製作されるため、**高品質・高強度**のコンクリート部材によって、美しい建築が実現できます。

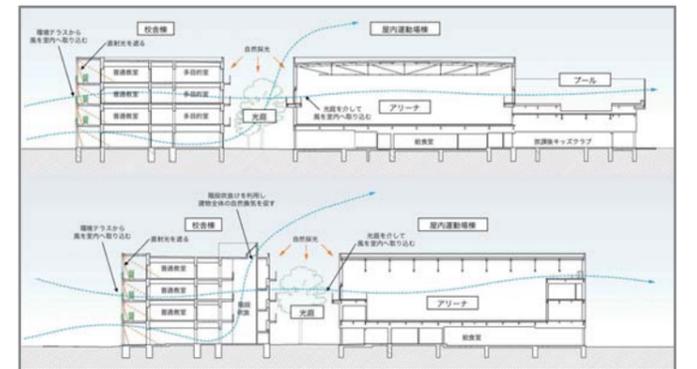


運び込まれたプレキャストコンクリート材は、短期間のうちに組み上げられていきました。内部には、強靱なワイヤーが張られ、引っ張り合う力で、より建物としての強度を増しています。

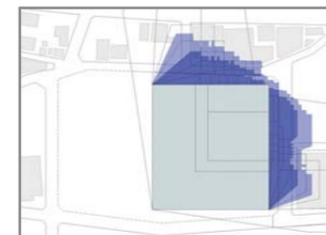
近隣環境との調和と自然エネルギーを有効に使う設計

自然エネルギーを利用した環境計画

- 環境テラスにより直射日光を遮り、屋内に風を取り込んでいます。
- 光庭を介し自然採光・自然通風を確保しています。
- 階段室に吹き抜けを設け、建物全体の自然換気を促しています。



日影シミュレーションでの解析



設計段階で周辺環境に及ぶ日影のシミュレーションを行い、より影響が少なく、且つ、建物として圧迫感の少ない設計が採用されました。

資料・写真提供：株式会社 山本理顕設計工場



広い環境テラスは季節の光を選ぶ

4m幅の広い「環境テラス」は、観察授業だけでなく、夏の高い陽の光を遮り、冬の低い陽の光を取り込む設計になっています。



採光シミュレーション

フレキシブルに2種類の戸の使い分けが可能 セミオープンな空間で校舎内へ採光する

教室の扉を、隙間のある格子戸にすることで、空間のつながりを保ち、外からの光を取り入れることができます。

使用用途に応じて、ガラス戸と格子戸を使い分けることで理想環境を作りやすくしています。



陽と影が織り成す
光と幾何学模様
光を取り込む設計



白い校舎は、レフ板のような役割

直接光が入らない場所も、白い校舎に反射した間接光を利用することで、明るさを補うことができます。



視覚的効果だけではない波型天井

柔らかな視覚効果、無機質な照明機器を視界から隠す役割の他に、音を多方向に分散させて、強い反響音を防いでいます。



デザイナー：安東 陽子さん

デザイナーズセンスに触れる

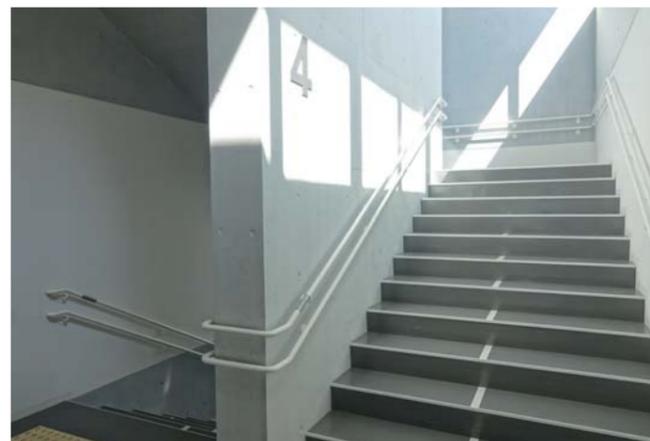
サインデザイナー：廣村 正彰さん



階段周辺のふんわりとした丸い模様は、水たまりを跳ねるように、ウキウキと楽しい気分になります。



モノトーンのすっきりしたデザインで、校舎の雰囲気になじんでいます。



時間帯や季節によって、太陽光の射す角度が変わり、違う景色や模様を浮かせさせます。



市民開放プール

新校舎の3階には安全性と利便性を兼ね備えた、市内小学校の中では最大級の屋上型プールが完成しました。リゾートを思わせる外観と、広々としたまわりのスペースが子どもたちに人気です。学校が利用しない土日や夏休み期間には、横浜市としても初めて市民も利用できるプールとして開設し、話題を呼びました。

笑顔いっぱい友だち思って助け合い、 新校舎と共に新しい一歩をふみだして

レベルアップ 子安小



円陣を組んで団結力レベルアップ!



AET 授業でデモンストラクションレベルアップ!



プログラミング授業で開発力レベルアップ!



読書の秋に心の豊かさレベルアップ!



理科実験で好奇心レベルアップ!



大仏開眼式演出で歴史力レベルアップ!



ジャンプレベルアップ!



おなじみの波動攻撃でパワーレベルアップ!